

【生駒らしさの読み解き】 生駒らしさを感じましょう



川筋に沿った曲線の道（西菜畑町）

大地には起伏があるので、その等高線に沿ってつくられた道は自ずと曲がった道になります。これはわたしたちの行動パターンも影響しており、人間は完全な直線では進まず、自然と曲がるように歩くため、人の足跡でつくられた踏み分け道の多くも曲がっています。

曲がった道を進んでいくと、道沿いの家々に囲まれたような印象を受けることがあります。このような「閉じた」場所は、続いていく道の一部でありながら、居心地のよい落ち着いた空間となります。



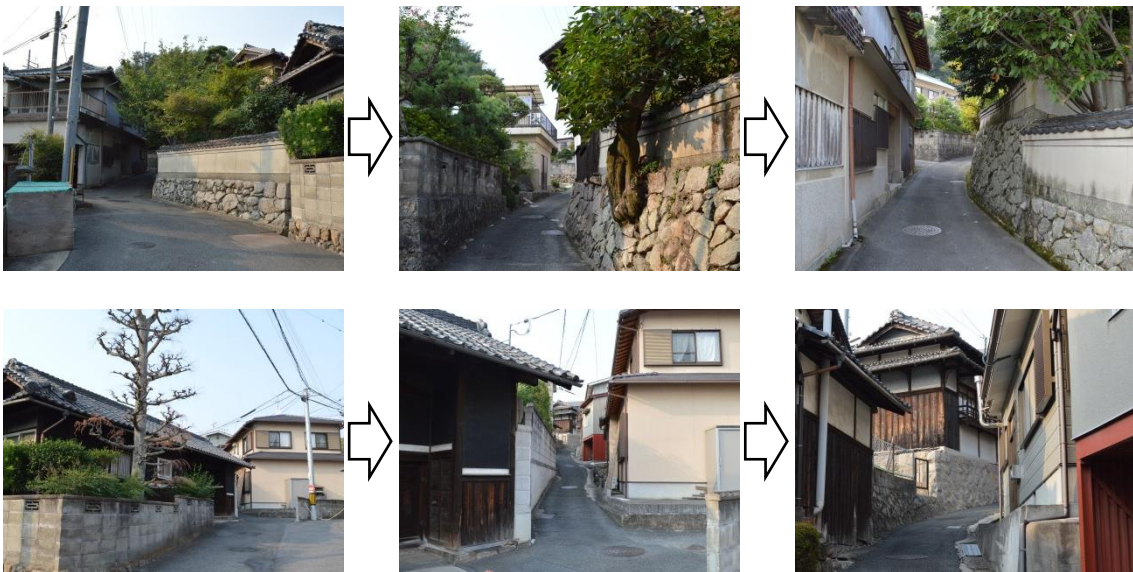
踏み分け道は地形に沿って、
自然と曲がっている（生駒山上周辺）



視線の先は緩やかなカーブにより閉じられ、
居心地のよい空間になる（萩の台）

さらに、曲がっていることで、次の景観は先に進まないと見ることはできません。曲がった道のその先に何が続くのか、期待感を抱かせるとともに、次々に景観が移り変わるシーケンス（連続させて景観が展開する）を生み出します。

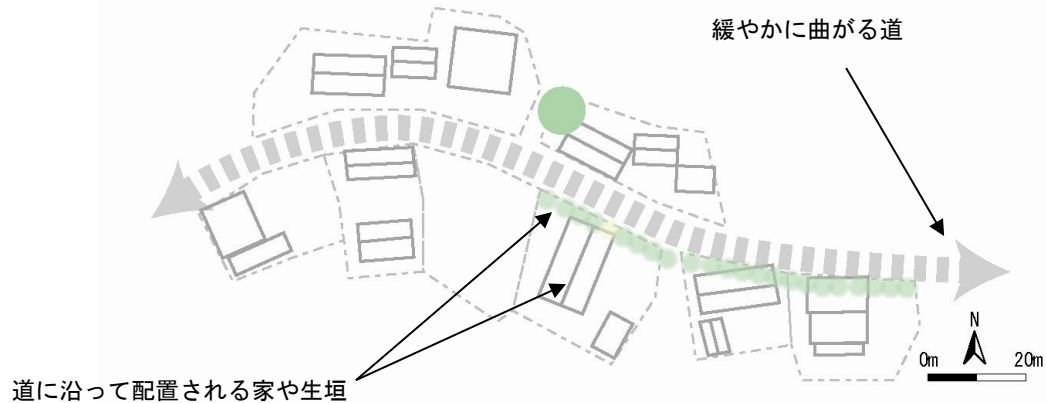
曲がった道は、景観に奥行きと変化を与えるのです。



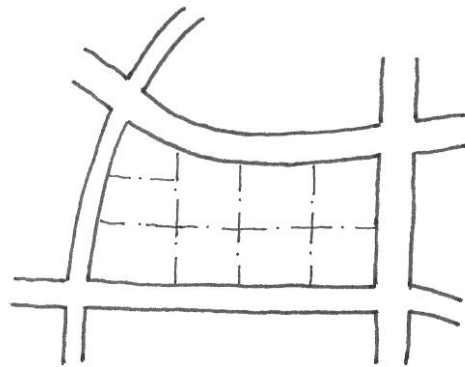
集落内の曲がった道を進むと、まちなみが次々と変化する（萩の台）

【生駒らしさのために】 これだけは守りましょう

- 地形に合わせてできた道の曲線をいかし、道の形に沿うように、緑や建物を配置しましょう。まちなみの変化や奥行きを印象付けることができます。



- 新しく道路をつくる時には、直線的なものばかりでは空間が明快・単調になりすぎて、奥行きや変化が乏しくなります。場所によっては曲線も取り入れるような計画としましょう。



地形に沿って曲線を取り入れた
区画道路

関連する
パターン

・ 23 期待感

こちらも参照して
ください

【生駒らしさの読み解き】 生駒らしさを感じましょう



宝山寺参道の坂道（仲之町）

【上：見下ろす、下：見上げる】

住宅地の坂道（生駒台南）

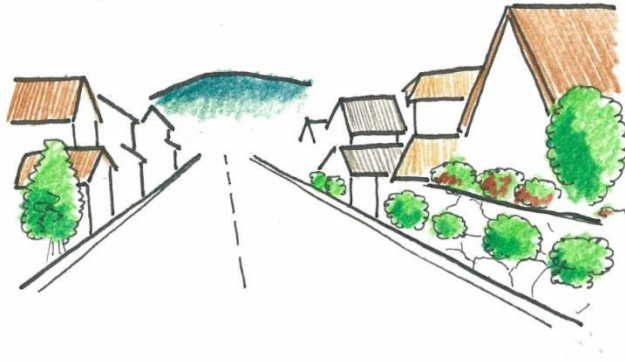
【上：見下ろす、下：見上げる】

生駒は地形の起伏が大きいことから、坂は身近なところにたくさんあります。

同じ坂でも、上から見下ろすときと下から見上げるときとでは、坂道に沿ったまちなみの表情も変わります。上から見下ろすときには、建物の屋根や壁面、その先にある緑が目に入りますが、下から見上げると道路の舗装や敷き際の植栽・擁壁が前面に映ります。

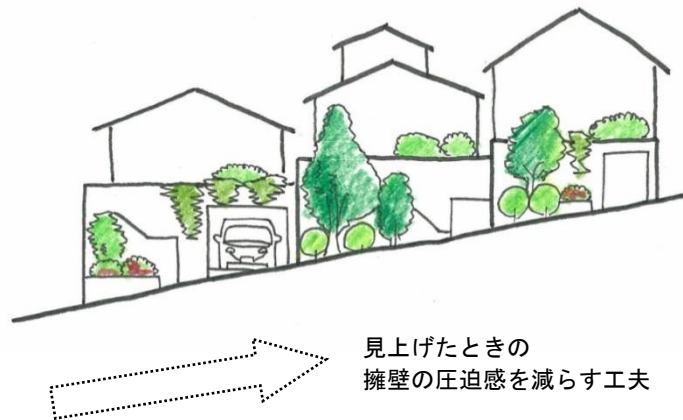
【生駒らしさのために】 これだけは守りましょう

○坂の上から見下ろしたときの眺望を大切に、眺望に配慮した建物にしましょう。



坂からの眺望に配慮して
屋根に勾配を付け
周りの屋根に色を合わせる

○坂の下から見上げるときには、道路の舗装や沿道の擁壁の存在感が大きくなるため、威圧感を与えないような工夫をしましょう。また、目に映る緑の面積が小さくなってしまふことが多いので、緑が見えるように敷地内で重点的に配置し、普段からの維持管理をきちんとすることで、見上げる眺望に配慮しましょう。



緑を積極的に配置

見上げたときの
擁壁の圧迫感を減らす工夫

○坂道の上に建つ建物では、坂道から見えるところに特徴を持たせると、坂道を登るときの目標となります。

関連する
パターン

・ 22 人にあった尺度

こちらも参照して
ください

【生駒らしさの工夫】 こんなことやってみましょう

○坂の下から見上げる視線に対して、圧迫感や無機質な印象を与えたりしないようにしましょう。



緑化により擁壁の圧迫感を軽減（生駒台）

○坂の見上げ、見下ろしの眺めの印象をアップさせる演出を取り入れましょう。



擁壁の前に緑化の空間を確保し低木を配置

○上から見下ろす視線を意識して、緑の連続性が生まれるようにしましょう。



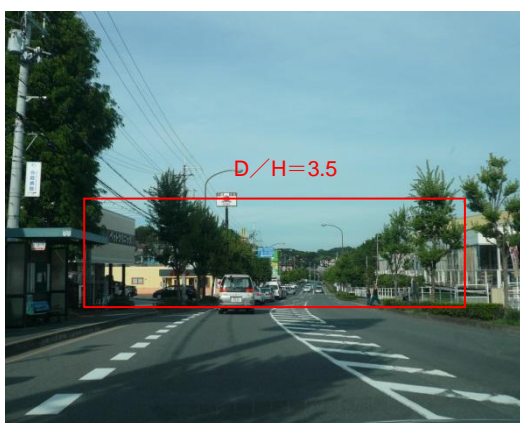
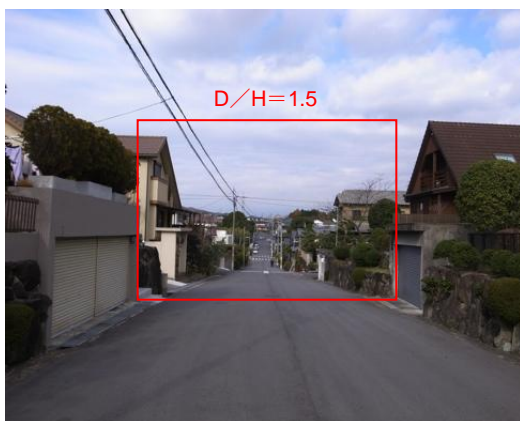
緑の連続感がある通り（東生駒）

○坂道の上に建つ建物では、坂道に面する部分に特徴を持たせると、坂道を登るときの目標となります。



正面に見える木が目印になる（東生駒）

【生駒らしさの読み解き】 生駒らしさを感じましょう



左上：戸建て住宅地の通り（白庭台）
左下：低密度の幹線道路沿い（白庭台）

右：お店やテナントビルが建ち並ぶ通り（本町）

通りの水平方向の広がり（D）と沿道の建物の高さ（H）の割合（プロポーション）が、通り空間の性格を決めています。

D/Hが大きくなるほど開放感ある印象が強くなりますが、大きすぎると通りとしてのまとまりを感じにくくなります。逆に小さくなるほど囲まれ感が強くなりますが、小さすぎると圧迫感を感じるようになります。

生駒の通りのプロポーションは概ね以下のような特徴が見つかります。

- ・戸建て住宅地の主要な生活道路沿いのまちなみではD/Hが1.5～2.0で計画されています。
- ・幹線道路沿道は、建物が高密度に並ぶまちなみでは建物の面が際立っており、D/Hが1.5程度となっています。建物が低密度に並ぶまちなみでは、

建物よりも沿道の街路樹の存在感が際立ち、D/Hが3.0~3.5程度となっています。特に生駒では沿道の建物が低く、幅員が大きく歩道・植栽空間が充実した道路が多く、D/Hが大きいゆったりで広々とした道路空間が特徴的です。

- ・まちなかの建物の集積が高いエリアのまちなみではD/Hが1.0前後になっています。

道路の交通機能に応じた幅員

道路は、どのような交通機能を果たすかによって、概ねの幅員の目安があります。プロポーショナルを考える上で参考にしてみてください。

- 広域幹線道路
 - ・市域をまたぎ広域にわたる道路です。(都市計画道路網にあたる)
- 地域幹線道路
 - ・住宅地の周りの道路です。(都市計画道路網にあたる)
 - ・交通量进行处理することと、歩行者と自動車を分けることが必要で、概ね幅員 16m前後となります。(交差点部に右折レーンを設置可能な2車線道路+歩道)
- 主要生活道路
 - ・交通だけでなく、多様な機能を受け持つ道路です。
 - ・ある程度の交通量の自動車と歩行者が同時に利用するので、歩道が必要となり、幅員 8~12m前後となります。(片側歩道~2車線の両側歩道)
- 主要区画道路
 - ・主要生活道路と区画道路の間にあたり、主に防災上のネットワークをつくる道路です。
 - ・消防活動が困難な区域を解消するため、幅員 6m程度が必要とされています。
- 区画道路
 - ・駐車車両がなければ消防車が通行でき、消防活動もできるよう、幅員 4m程度が必要とされています。

D/Hで変わるまちなみの雰囲気

下の写真は、いずれも京都のまちなみの写真ですが、道路の幅と建物の高さの関係であるD/Hによって、ずいぶん通りの印象が変わることが分かります。



建築家の芦原義信は、『街並みの美学』の中で、日本や海外のまちなみのD/Hの特徴を紹介しています。それによると、「京都の伝統的な町家と『おもて』との関係はD/H=1.3程度のこちよい広さがある」ということです。

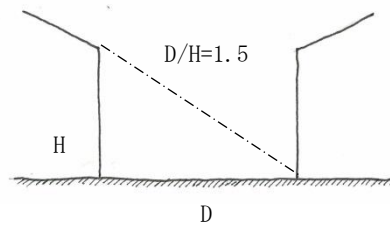
生駒のまちなみの雰囲気にあった、こちよいD/Hの関係がきっと見つけれられるはず。そんな視点でまちなみを見てみてはどうでしょうか。

【生駒らしさのために】 これだけは守りましょう

○通りの性格に応じた通りと建物のプロポーションを考え、それに合わせて建物の高さを調整しましょう。

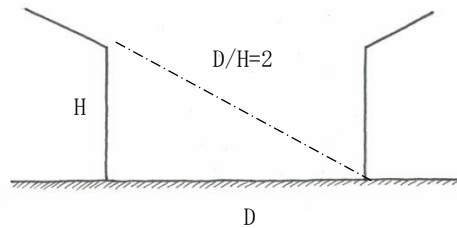
○単体の建物だけでは通りの見通し景観は生まれません。隣の建物の高さも見て、通りとしての連続性を生み出す配慮を心掛けましょう。

- ・住宅地において、主要な生活道路沿いで D/H が1.5~2.0となるように計画し、建物の敷地計画でも配慮しましょう。



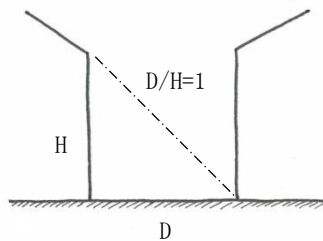
落ち着いた感じがある通りとする場合には D/H をやや小さくする

- ・幹線道路において、緑豊かな開放感のある通りの景観を生み出すため、 D/H を2.0~3.0程度と大きく取りましょう。



開放感のある通りとする場合には D/H を大きくする

- ・駅周辺など建物の面が連なった通りでは、面の連続性を際立たせるため、 D/H を1.0~1.5程度と小さくしましょう。



親密感のある通りとする場合には D/H を小さくする

関連する
パターン

こちらも参照してください

- ・ 5 見通す眺望
- ・ 1 1 曲がった道
- ・ 1 4 連歌式
- ・ 2 2 人にあつた尺度

建物の高さのルール

生駒市では、用途地域の種類によって建物の高さの上限は決められており（高度地区）、さらに、道路の幅などの敷地の条件によって高さが決まります。その他、個別の地区で制限が決められているところもあります。

現在の日本の法制度では、まちなみの連続性を考慮した高さの制限はなく、事業者の配慮によるところが大きく、難しい問題となっています。

しかし、その一方で、高さをそろえる取組を進めているところもあります。

埼玉県川越市では、蔵のまちなみを後世に継承していく「町づくり規範」を定めており、その中で「（建築の）高さは周囲を見て決める」というものがあります。

海外では、「新しく建設する建物の軒高は、左右に隣接する建物と調和するように一定の範囲内（隣の建物の〇%以内など）に収める」というルールもあつたりします。

こうしたルールは、地元の建物の所有者の理解と合意形成がないと導入するのは難しいのですが、建て替えなどによって変化が起こる前に、「どのくらいの高さのまちなみがふさわしいのか」を考えてみることも必要ですね。

【生駒らしさの工夫】 こんなことやってみましょう

- 高さは敷地条件や前面道路の条件のみで決められることが多いのですが、周りのまちなみにも目を向けて、通りのプロポーションや、隣の建物との関係を考慮して、まちなみとしてそろった姿を考えてみましょう。



背後の戸建て住宅地を阻害しない高さの幼稚園（白庭台）



中低層（3階程度）でそろったまちなみ



中層（6階程度）でそろったまちなみ

【生駒らしさの読み解き】 生駒らしさを感じましょう



白庭台駅前の景観（白庭台）

白庭台駅は、住宅地の玄関口として駅舎や駅前広場が整備されました。

周辺の商業施設や公共施設、集合住宅などは、これらと調和するようデザインされています。

地域内には様々なデザインの建物がありますが、どこかに共通するものがあることで景観のまとまりが生まれます。新しく計画的に整備された駅前などでは、個々の建物がそれぞれの個性を表現しながらも、地域で核となる建物と協調したデザインが採用され、多様性とまとまりのある景観となっています。



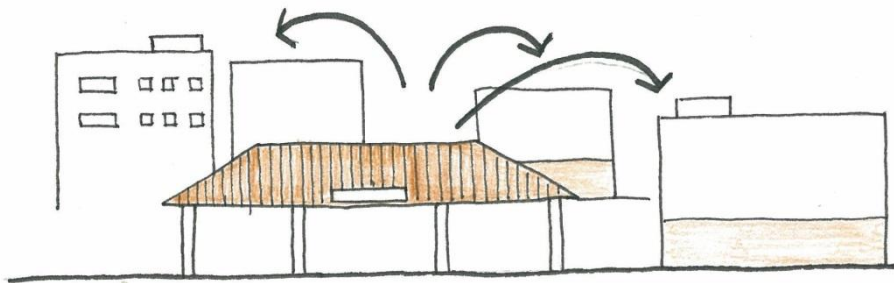
駅に近接した色彩などをあわせた集合住宅（白庭台）

隣り合った建物のデザインが、連歌のように少しずつ形を変えながら順次継承・展開されていくことで、自然なまとまりと個性が生み出されています。

(連歌・・・和歌の上の句(五・七・五)と、下の句(七・七)を多数の人たちが前後の句に呼応しながら交互につくり、ひとつの詩になるように楽しむ文芸)

【生駒らしさのために】これだけは守りましょう

- 建物を計画するときには、周囲にある良いデザインの建物を探し、それと調和するようなデザインも考えましょう。
- 地域の核となる建物のデザインの特徴を読み取り、その一部を継承したり、すでにデザインを継承した建物が近接している場合には、その建物との関連性にも配慮したデザインとしましょう。
- 周辺の建物となじむよう低彩度の色彩を使うなど、色彩に配慮した計画としましょう。



駅舎のデザインに合わせて周辺の建物をデザインする

関連する パターン

こちらも参照してください

- ・ 9 顔となる空間
- ・ 13 通りのプロポーション
- ・ 21 人の手が加わる余地
- ・ 23 期待感

【生駒らしさの工夫】 こんなことやってみましょう

- 敷地の周りをよく見ると、地域の雰囲気や良さを良くしているものやまちなみの特徴付けているものがあるはず。それらの要素との関係性を考えてデザインしましょう。



街路樹と同じ樹種の樹木が敷地内にも植栽され、地域の景観とのつながりを感じさせる（上町）



敷き際など、視線の手前に来る場所を緑でつなげると、自然と視線が集まり、背後の様子をうまく隠してくれる



劇場のデザインのイメージを周辺のマンションのデザインが継承してまとまりのある景観をつくっている

- 周囲の建物と単純に同じ形態にするのではなく、継承すべき最も重要な要素を考え、それを建物のデザインにいかす工夫をすることでその場所にふさわしい個性を生み出すことができます。

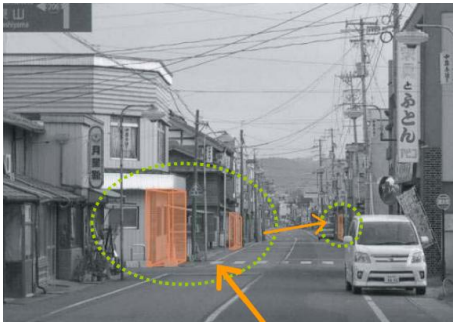


全く異なる意匠や材質だが、通りに沿って共通する屋根の勾配や高さを継承している

連歌方式のまちなみづくり

岩手県平泉町の中尊寺通りは JR 平泉町駅と中尊寺を結ぶ約 1.5km の県道で、歴史的にも重要な道ですが、近年、商店街の衰退が進み、景観的な魅力も乏しく、歩行者も少ない状況にありました。

そこで、国のモデル調査を活用して、「人が歩きたくなる景観」を創出するために、人が立っている場所からほど近い場所に次の景観資源が見え、「そこに行ってみよう」と思わせるような景観づくりを検討する方式を「連歌方式」として位置付け、地域の住民と話し合いのもと、デザインコードを作成しました。



連歌方式のイメージ



格子による修景の実寸模型

修景の実寸模型

出典：『平成 21 年度 地域景観づくり緊急支援事業結果報告』
(国土交通省ホームページ)

【生駒らしさの読み解き】 生駒らしさを感じましょう



小さな石積みなどを使いながら斜面に沿って建てられた住宅（萩の台）

起伏が大きい地形の生駒では、昔から自然な形で大地の高低差を取り入れて、家や田畑がつくられてきました。

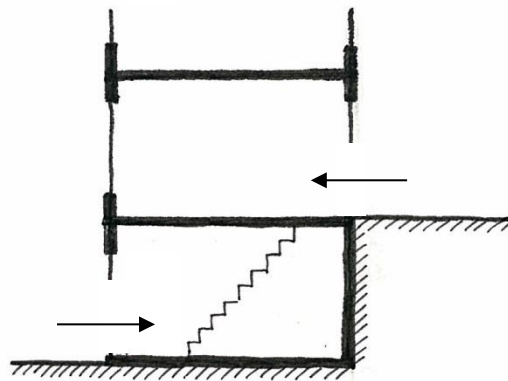
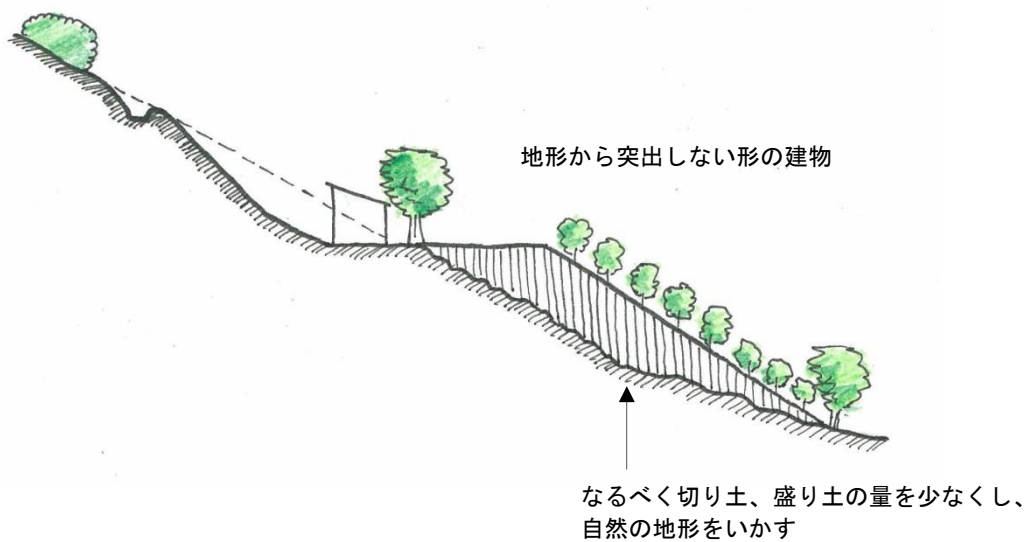
地形をいかすための創意工夫をして建てられた家々は一軒一軒が個性的です。そのような家々は、全体としては地形によくなじんだまちなみをつくりだします。



市役所は地形に沿って立地しており、出入口も1階、2階にある（東新町）

【生駒らしさのために】 これだけは守りましょう

- 高低差のある地形はあまり変えずに、大きな切り土・盛り土は避ける、建物は周りから突出しないようにするなど、自然の地形、斜面をいかしたデザインにしましょう。



高低差を取り入れた構造

関連する
パターン

・ 22 人にあった尺度

こちらも参照して
ください

【生駒らしさの読み解き】 生駒らしさを感じましょう



お店が並び、人が行き交い、にぎわう商店街（ぴっくり通り・元町）

昔から、商店街ではお店が道に面して商品を並べ、道行くお客に対してコミュニケーションを取りながら商売をしてきました。

商品を陳列したり、ポップやメッセージを掲出したり、季節感のある飾りや花で演出しながらお店のイメージを伝えたりして、店員がお客とやり取りをする光景が見られます。

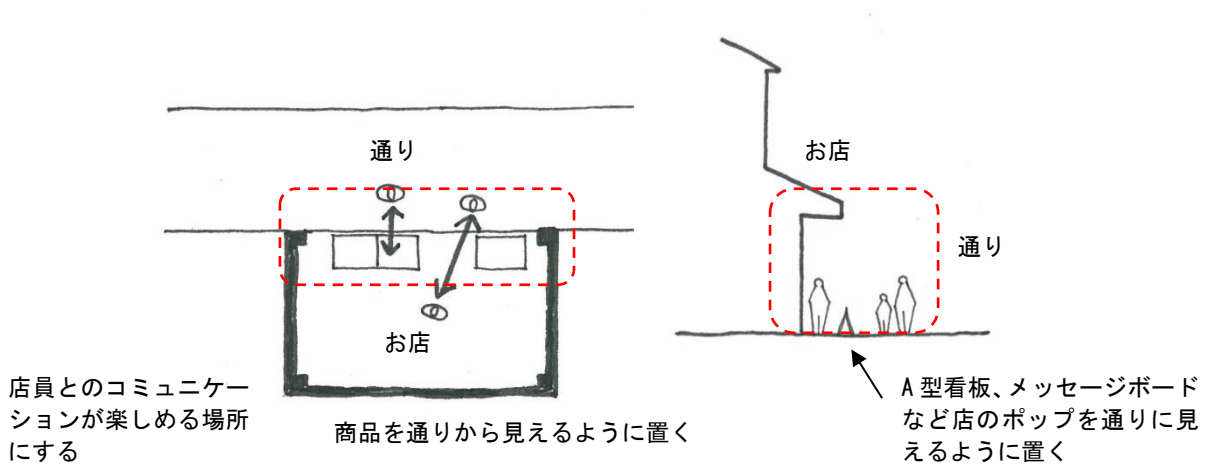


七夕の季節感のあふれる演出

道とお店の中間の領域はそうした人と人のコミュニケーションの場であり、にぎわいある景観づくりに重要な空間として機能しています。

【生駒らしさのために】 これだけは守りましょう

○お店が並ぶ通りでは、商品の陳列や軒先の飾り付け、店員とお客のやり取りといったコミュニケーションの要素が、通りにいきいきと表れてくるようなしつらえとしましょう。



○にぎわいが途絶えないようにできるだけお店が連なるようにし、内部が全く見えないなど、コミュニケーションを閉ざすようなしつらえは避けましょう。

関連するパターン

こちらも参照してください

- ・ 9 顔となる空間
- ・ 21 人の手が加わる余地
- ・ 23 期待感
- ・ 26 しきりとつなぎ
- ・ 29 仮設の風景
- ・ 30 移ろいの風景

【生駒らしさの工夫】 こんなことやってみましょう

○周りとの調和し、歩いて楽しい通りとなるような魅力的なお店のデザインを考えましょう。



すっきりとした雰囲気のお店

○お店と通りの間に親密な関係が生まれるようなデザインを考えましょう。



通りから中の様子がうかがえるウィンドウ

○建物の中の様子も外からうかがえるようにすることで、にぎわいを誘発しましょう。



中の様子もまちなみの一部に

○お客の目に情報が留まるようにしましょう。ただし、過度な露出は避けましょう。



メニューやディスプレイを掲出（元町）

○お店同士の横の連なりを考えたいデザインにしましょう。



軒先が連なるデザインの工夫

○横の連なりを演出する工夫を考えましょう。



暖簾でつなぐ

【生駒らしさの読み解き】 生駒らしさを感じましょう



生駒駅北口のすっきりとした景観（谷田町）

市街地再開発と新駅周辺の建物は、色合いや形態といったデザインを統一し、屋外広告物の掲出する場所や大きさを統一することで、全体として「すっきり」とした空間を生み出しています。

こうした要素の絞り込みにより、結果的に店名などの情報が整理され見やすくなり、落ち着きのある住宅地につながる玄関口としてのイメージづくりにも寄与しています。

【生駒らしさのために】これだけは守りましょう

○落ち着いたある住宅地につながる駅前として「すっきり感」を大切にしたい建物や屋外広告物のデザインを心掛けましょう。



白庭台駅前のすっきりとした景観（白庭台）

○建物の意匠や色彩などのデザインは、要素の足し算のデザインよりも、周りと協調したシンプルな引き算のデザインを心掛けましょう。



デザインが統一された白庭台駅前の景観（白庭台）

○屋外広告物は、できるだけ統一した規格ですっきりと整理して掲出するようにしましょう。掲載する情報もできるだけ絞り込み、乱雑な印象を与えないように配慮しましょう。



学研奈良登美ヶ丘駅南口のすっきりとした広告物の景観

○すっきりとした印象となるように、ベースカラーは低彩度のものを使い、アクセントカラーを効果的に使うなど、色彩の使い方を工夫しましょう。

関連する
パターン

こちらも参照してください

- ・ 9 顔となる空間
- ・ 10 人が交わる場所
- ・ 14 連歌式

要素を絞り込み、すっきり感を生むためのルールづくり

学研奈良登美ヶ丘駅の周辺では、新しいまちの顔となる空間にふさわしいように、建物や広告についてルールを定めています。広告物については、「景観保全型広告整備地区」という制度を導入し、表示の場所、形、面積や色などの掲出方法やデザインの方針を決めています。また、建物については「学研奈良登美ヶ丘駅前地区」として都市計画法による地区計画の制度を導入しています。

これらの制度は、隣接の奈良市と市域をまたいで、市民・事業者・行政で一体となりまちづくりに取り組んでいます。



学研奈良登美ヶ丘駅：駅南口の景観

【生駒らしさの工夫】 こんなことやってみましょう

○通りに面した面のデザインを
合わせましょう。



生駒駅北口（谷田町）

○隣接する建物同士でデザインに
統一感を持たせましょう。



駅前のデザインが調整されたまちなみ

○地区全体のデザインに統一感を持たせましょう。



白庭台駅前（白庭台）



駅から続くデザインがすっきりした印象に

○広告物の掲載場所や大きさをま
とめるなどの工夫をしましょう。



学研奈良登美ヶ丘駅前（鹿畑町）

○広告物はできるだけ集合化しま
しょう。



広告の集合化

【生駒らしさの読み解き】 生駒らしさを感じましょう



日常の暮らしがまちなみをつくる（北新町）

普段、なにげなく歩く道でも、目を留めてみると、住んでいる人が丹精込めて手入れしている花など、心がほっとする景観に出会うことができます。

こうした普段の暮らしがつくる景観（生活景）が、生駒の景観を形づくる地模様となっており、景観はわたしたちの暮らしの中から生まれるものであるということを認識させてくれるのです。



暮らしの様子がうかがえる景観（高山町）

【生駒らしさのために】これだけは守りましょう

- 普段の暮らしがつくる景観（生活景）が生駒らしい景観をつくる要素であることを意識し、暮らしぶりから生まれる景観も大切にしましょう。
- 敷き際周りは暮らしが最もよくにじみ出るところです。日頃から手をかけ、美しく保つようにしましょう。
- 公園の緑と周りの家々の緑をつなげるなど、暮らしの中から生まれるものをうまく景観づくりにいかす方法を考えましょう。
- 内部が全く見えないなど、暮らしの様子がうかがえないようなしつらは避けましょう。

関連する パターン

こちらも参照してください

- ・ 16 商いのコミュニケーション
- ・ 19 なりわいがつくる景観
- ・ 21 人の手が加わる余地
- ・ 26 しきりとつなぎ

【生駒らしさの読み解き】 生駒らしさを感じましょう



一年で最も冷え込む2月初旬に見られる竹の寒干しの景観（高山町）

～古くからの茶釜師の家は農家に混じって点在し、昔からの屋敷を守って、もっぱら茶釜づくりに精魂を打ち込んできた。職人の街、夜業の街といわれた茶釜の里はここである。～ 出典：『生駒市誌』

古くからの集落では、茶釜や竹器製造、酒造りなどの伝統産業が営まれてきました。また、市内の平坦部の多くは稲作が営まれ、美しい田園景観が守られてきました。

茶釜や竹器の材料となる竹の寒干しが、冬の田んぼに広がり、茶釜の里ならではの生駒らしい伝統産業の景観をつくっています。



酒造店の店構え（小瀬町）

産業と生活が密接に結びついたものがなりわい（生業）であり、景観も生業によって形づくられています。ただ、近年の生活様式の変化によって、その景観は失われつつあります。

【生駒らしさのために】これだけは守りましょう

- 生業がつくる景観が、生駒の大切な景観であることを認識し、営みを継続していきましょう。
- 一人一人の暮らしの中で、地場産業を応援できる取組を考え、生業を支えていきましょう。

「地産地消」を意識してみませんか

生業の景観を守るには、そこでの生業を続けていけるかどうかにかかっています。

最近では、安心・安全、新鮮で美味しい作物が身近に手に入るということで、地産地消の取組も進められています。また、伝統産業の作品に触れられたり、制作の様子を見学・体験できたりする施設もあります。

身近な直売所に足を運んでみたり、市民農園に参加してみたり、伝統産業の商品を買い求めたり、一人一人の地場産業とのかかわりが増えれば、生業の景観も維持できるのではないのでしょうか。



関連する
パターン

・ 3 ヤマ・ムラ・ノラの調和

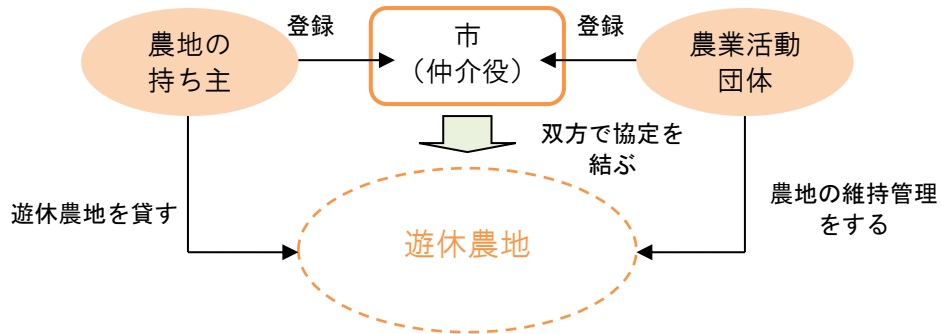
こちらも参照してください

農地をみんなで支える取組

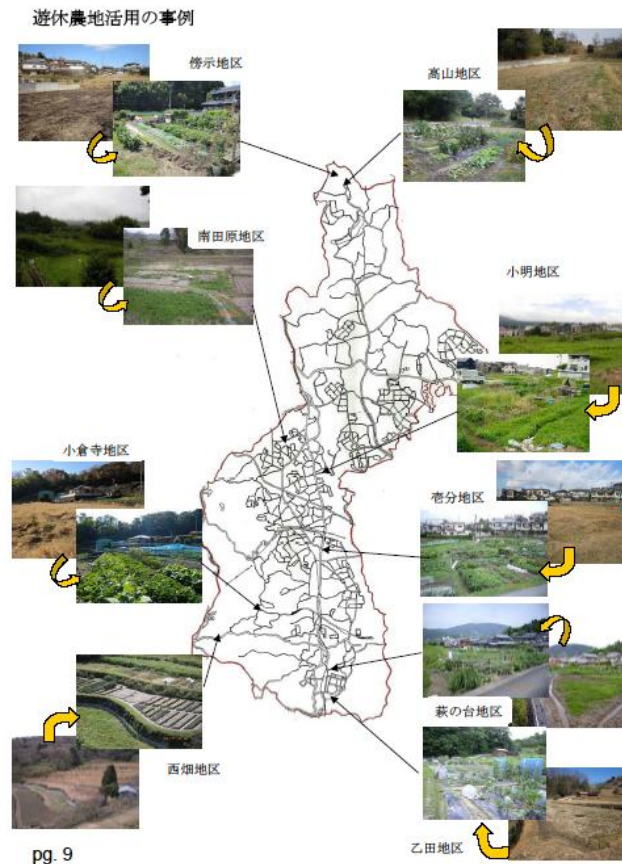
農地を一人で維持管理するのは、負担も大きく、やむなく手放すことになってしまいがち。でも、地域のみなさんや、農業が好きな市民活動団体などが手助けしてくれる、そんな仕組みもあります。

<遊休農地活用事業>

農地の管理などを希望する農地所有者と耕作希望者を市が仲介するもので、遊休農地を維持管理し、景観を含めた環境の保全を進めながら耕作できる方に農地の貸付を行います。



遊休農地活用事業の仕組み



遊休農地活用の事例

【生駒らしさの工夫】 こんなことやってみましょう

○生業の景観は生駒の大切な景観として、農家のみなさんだけでなく、いろいろなかかわりをつくりながら、復活させていきましょう。



地元の土地所有者で構成する「西畑町棚田を守る会」と市内外の人が棚田の保全や里山の管理に取り組んでいる「いこま棚田クラブ」が協力して棚田の保全活動に取り組んでいます（西畑町）

出典：いこま棚田クラブのホームページ

○竹の寒干しや茶釜などの伝統産業をモチーフ（題材）にしたデザインを取り入れ、地域の伝統産業を目に見える形で伝えていくことも有効です。

ただし、やみくもに取り入れるとかえってイメージを損なうこともありますから効果的な演出を心掛けましょう。



茶釜をデザインモチーフに（高山町）

【生駒らしさの読み解き】 生駒らしさを感じましょう



左：モリ（奥野のモリ・萩の台） 右上：モリ（小山のモリ・萩の台） 右下：地藏（萩の台）

生駒谷では市街地が広がり、集落のまとまりも不明瞭になってきていますが、かつて集落を取り囲むように外縁部に位置していた「七モリ」は、今も集落の場所を知る手がかりになっています。

ムラの人々はこれらの「モリ」を畏れ敬う風習と結びついた聖なる場所として「モリさん」と呼び、大切に守ってきました。

集落での暮らし方も時代とともに変わってきましたが、「七モリ」にまつわる言い伝えは今でも受け継がれ、人々の暮らし方や空間の使い方の中に息づいています。

【生駒らしさのために】 これだけは守りましょう

○時代を超えて受け継がれ、集落に今も息づくモリさんやお地蔵さんなどのいわれのある空間は大切に守りましょう。場所の由来や伝説には素直に耳を傾け、伝承に反しないような土地の利用を計画しましょう。



ムラはずれの大木や地蔵さんの物語を継承する
(西菜畑町)

○寺院やモリさんなどの周囲では生活感が出過ぎないようにしましょう。厳かな雰囲気を醸し出すように建物の配置やデザインを工夫するなど、植栽による見え隠れを意識しましょう。



関連する
パターン

- ・ 8 生駒山の修験の領域
- ・ 31 記憶の風景

こちらも参照してください

【生駒らしさの工夫】 こんなことやってみましょう

○昔から言い伝えのある場所などは、その空間を崩すことのないように、できるだけ尊重した計画にしましょう。



住宅地開発で大切な場所を残す（上町）



道標を保存する（小瀬町）



マンション敷地内の樹木を残す